

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会
(第25期・第5回) 議事要旨

1 日 時 2022年3月8日(火)15:00~17:10

2 方 法 遠隔会議 (ZOOM ホスト 富山大学 張研究室)

3 出席者 沖大幹、春山成子 (委員長)、阿部彩子、石川徹、伊藤香織、井田仁康、植松光夫、
小口高、奥村晃史、川口慎介、川幡穂高、川東正幸、久保純子、小嶋智、小森大輔、
近藤昭彦、斎藤文紀、篠田雅人、杉田文 (幹事)、鈴木康弘 (副委員長)、高橋桂子、
寶馨、張勁 (幹事)、佃栄吉、津田敏隆、中田節也、中谷友樹、西田治文、長谷部徳子、
氷見山幸夫、平田直、益田晴恵、村山泰啓、森田喬、山形俊男

欠席者：三枝信子、佐竹健治、矢野桂司、谷口真人、中村尚、山川充夫

参考人：松田裕之 (横浜国立大学)

傍聴人：倉田薫子 (横浜国立大学)

4 議題

- (1) 第25期・第4回 地球・人間圏分科会の議事要旨確認
- (2) 「地球環境変動と人間活動」フォーラム「水と水循環の研究最前線」シンポジウム報告
- (3) 社会水文学小委員会の活動報告 (小森先生)
- (4) 第3回目の地球・人間圏分科会主催のシンポジウム企画案について (植松先生)
- (5) 講演1：松田裕之先生「ユネスコ「人間と生物圏」計画の可能性」
- (6) 講演2：中田節也先生「ジオパークの活動について」
- (7) その他

5 配布資料

資料1：地球人間圏分科会第4回目議事要旨

資料2：松田裕之先生「ユネスコ「人間と生物圏」計画の可能性」資料

資料3：中田節也先生「ジオパークの活動について」資料

資料4：社会水文学小委員会 (第25期・第1回) 議事要旨 (案)

資料5：「地球環境変動と人間活動」フォーラム「水と水循環の研究最前線」シンポジウム報告資料

5-1 学術の動向 2022年1月号目次

5-2 学術の動向 2022年1月号掲載シンポジウム要旨

5-3 学術の動向 2022年2月号目次

5-4 学術の動向 2022年2月号掲載フォーラム要旨

資料6：地球人間圏分科会主催公開シンポジウム案「沿岸環境の変化と人間活動—10年後を見据えた課題と対応— (仮)」

6 議事内容

議事に先立ち、春山委員長により定足数にたる委員の出席があることが確認された。

(1) 第25期・第4回地球・人間圏分科会の議事要旨確認

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会（第25期・第4回）議事要旨を確認した。

(2) 「地球環境変動と人間活動」フォーラム「水と水循環の研究最前線」シンポジウム報告

春山委員長より資料5-1、5-2、5-3、5-4にもとづき、2021年9月18日開催の公開シンポジウム「水」と「水循環」の研究最前線—21世紀の多分野協創研究にむけて—および2021年12月5日開催の学術フォーラム「地球環境変動と人間活動—地球規模の環境変化にどう対応したらよいか—」の要旨が「学術の動向」2022年1月号、2月号に特集号としてそれぞれ掲載されたことが報告された。

(3) 社会水文学小委員会の活動報告

小森委員より資料4にもとづき、社会水文学小委員会第25期第1回委員会が2022年2月22日に開催され、役員（中村晋一郎委員長、坂本麻衣子副委員長、高橋そよ幹事、檜山哲哉幹事）が決定したこと、今後、①各委員が担当テーマを選択しての報告、②社会水文学の国内課題への適用可能性の検討、③レビュー論文のとりまとめを行う予定であることが報告された。活動成果を2023年～2024年に日本学術会議シンポジウムまたはフォーラムを開催して報告することが提案され、小委員会でその可能性について検討することとなった。

(4) 第3回目の地球・人間圏分科会主催のシンポジウム企画案について（審議）

植松委員より資料6にもとづき、第3回目の地球・人間圏分科会主催のシンポジウム「沿岸環境変化と人間活動—10年後を見据えた課題と対応—（仮）」企画案（講演者案は変更の可能性あり）について説明があり、開催が承認された。開催にあたっては、2008年に地球惑星委員会から表出された提言「陸域・縁辺海域における自然と人間の持続可能な共生へ向けて」、国際連合の「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD2022）」との関連も考慮することが提案された。

(5) 講演1：松田裕之先生「ユネスコ「人間と生物圏」計画の可能性」

横浜国立大学 松田裕之教授による話題提供が行われ、続いて質疑応答があった。

(6) 講演2：中田節也先生「ジオパークの活動について」

中田節也委員による話題提供が行われ、続いて質疑応答があった。

(7) その他

特になし。